

Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 28 2018 秋

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 2-20-7 tel. 03-3814-0131 www.msz.co.jp

絶望の虚妄なること……

美馬達哉

アルゼンチン生まれの哲学者で、今はスペインのバルセロナで教鞭をとっているフェルナンド・ヴィダル教授を日本にお招きして集中講義をしていただいたことがある(中世神学の復活論からB級SF映画を経て最先端の脳科学までを心脳問題の変奏として縦横に考察する彼の議論も日本で紹介されてよいと思う)。

そのとき、私も同席して聴講したクラスで、本書『生存する意識』のもとになった医学論文の一つをテキストに学生たちを交えて討論した。それは、二十三歳で交通事故のために「植物状態」となった女性キヤロルのケースをまとめた論文だった(第八章)。意識のない魂の抜け殻として医療者たちから見放されそうになつていったキヤロルを、MRIで特殊な脳スキャン(機能的MRI)にかけて、「テニスをしているところ」や「自宅の中を歩き回っているところ」を想像してみるように告げたところ、研究者の予想通りのパターンの脳活動が記録できた実験だ。つまり、エイドリアン・オーウェン博士らは、キヤロルには意識があり、周囲の人々の会話を聞いており、その内容を理解することができ、言われたとおりに行動できる(ただし脳の中だけで)ことを客観的に証明したのだ。

キヤロル自身はもちろん、彼女の家族や友人また医療者たちが、どれほどの結果に力づけられたかは計り知れない。自由にならない身体の中に閉じ込められ誰にも気づかれないうちの恐怖と絶望はどれほどのものだっただろう。そんな事態になつてもコミュニケーションを可能とする技術が現実存在しているとした報道で知るだけでも、同じような状況

態にある患者さんとその周囲の人々もまた希望を与えられたことはいうまでもない。

私も脳神経内科医かつ神経科学者として、同じ分野でMRIを使った人間の脳活動計測に二十年以上関わってきたので、この論文が出版された二〇〇六年に大きな話題となつたことを鮮明に記憶している。専門用語を使うなら、テニスのプレーを想像するのは、ラケットを持った腕を振るイメージを思い浮かべる「運動想像課題」と呼ばれるものだ。自宅の中を歩く想像は、部屋の配置や家具の様子を記憶の中から取り出す「場所記憶再生課題」である。どちらも神経科学の領域ではよく知られている。専門家であれば、脳のどこが活動するかは簡単にイメージできるし、どちらの脳活動パターンがどちらの想像に対応しているかも一目

迫れば追えば、既存の枠組みでは説明できない現象が掘り起こされる。「意識」概念の輪郭が崩れ、他者との関係の中に溶けていく。新たな疑問がいくつも湧き上がる。一二年間も植物状態と思われながら、完全に近い認識能力を保つていたスコット。ヒッチコックの映画を使って意識が確認された映画好きの

瞭然だ。やっている実験そのものはありふれた内容なのだが、それを大学生のアルバイト被験者を相手に行うのではなく、植物状態とされた患者さんに臨床応用したアイデアと努力に私も同僚の神経科学者たちも皆が舌を巻いた。さて、クラスに参加した学生からは、この実験的なMRI検査が植物状態の人々にとって簡単に受けることができるかどうか——とくに費用の面で——という質問がでた。(現時点での正確な情報は持ち合わせていないが)カナダでは、この検査の有効性を評価した上で、政府の責任(つまり医療保険)で「植物状態」患者に提供すべきとの議論も出ているらしい。それを聞いて、クラスにいたカナダ人は「隣の米国だったら、『患者には意識の有無の確認のために脳スキャンを受ける権利がある、ただし支払い費用は……』と書かれた書類だけはもらえる」とブラック・ジョークを飛ばしていた。本書に紹介されている植物状態とされていた人々の物語を読めば、目の悪い人が眼鏡をかけたり足の悪い人が車いすを使ったりすること、植物状態の人たちが特殊な脳スキャンを受けることは連続的な支援方法

ジェフ・グレイ・ゾーンにいた間の心境を回復後につぶさに証言するケイトやファン……。検出限界未満の意識が生み出す計り知れない生命力や、それを支えた家族の力にも圧倒される。脳と意識の謎の奥深さにあらためて衝撃を受ける一冊。「バスタイムにこの本を読み始め、三時間後、すっかり冷たくなった風呂水の中で読み終わった。……宇宙に放り出された宇宙飛行士よりも他人と深く隔絶された人々とオーウェンとのコミュニケーションにあまりにも引き込まれ、バスタブから出られなかった——クリストフ・コッホ(神経科学者)【脳科学・ノンフィクション】【十八日刊】(四六判・320頁・二八〇〇円)

法で程度の違いは少ない、と感じられる。本当にそうならば、脳スキャンの臨床応用も「障害者に対する合理的配慮」つまり障害者の権利の一つと考えるのが当たり前なのではないか。ただし、脳スキャンには限界もある。じつは同業者の目から見れば、こうした研究のあら探しをするのは容易である。もし、交通事故による頭部外傷の影響で、耳が聞こえにくくなつていたり、聞こえても言葉や長い文章が理解できにくくなつたりしていれば、オーウェン博士らのやり方では失敗していただはすだ。また、事故のために軽い認知症になつて家の様子を忘れてしまつていたら、たえ意識がはつきりしていても、言われたとおりの脳活動を生み出すことはできなかっただろう。とくに運動は苦手で方向音痴の私としては、もしキヤロルの立場になつたとき、「運動想像」するのではなくテニスの試合を見ている想像をしてしまつたり、(そう広いわけでもないが)家の中の様子をうまく思い出せず途方に暮れている間に脳スキャンが終了してしまつたりすれば、外部に自分に意識があることを伝えられないまま万事休す、になりかねない。

それに近い状態だったのは、脳スキャンでは意識があるかどうかかわらなかつたが後に会話が可能となつて大学に通学できるまで回復したフアン(第三章)だ(第二章)。こうして自分たちの限界についてもはっきり書いてある著者オーウェンの姿勢は、科学者として誠実な態度だと思ふ。

現時点のテクノロジーで意識がなく回復不可能などと即断して絶望することが虚妄であるのは当然だが、脳スキャンによる解読という希望だけにすぎないのもまた虚妄だろう。意識と脳の謎は未解明なグレイ・ゾーン、まったく不思議だ。(みま・たつや 立命館大学 先端総合学術研究科)

*本紙ご送付先の変更は、お名前・新住所郵便番号・旧住所・封コードをお知らせ下さい

「グレイ・ゾーン」の意識を探る

エイドリアン・オーウェン

《生存する意識 植物状態の患者と対話する》

柴田裕之訳



「植物状態」と診断された患者に十全な知覚や認識能力があるとしたら、それをどうすれば証明できるだろうか? 本書の著者は脳スキャン技術を用いた実践的なマインドリーディングの手法を開発した。そこで明らかになったのは、「意識がない」はずの患者たちの中に、問いかけにYes/Noで答えるなどの紛れもない認知活動をやってのける人々が少なからずいるという事実だ。彼らは意識があるかないかの二分法では捉えきれない「グレイ・ゾーン」にいるのである。

患者が応答できるとわかったとき、「あなたは死にたいか?」と聞くべきだろうか? 著者の成果は脳損傷患者のケア、診断、医療倫理といった幅広い領域に波及するものだ。しかも著者が意識の存在証明に

書評コラム

延命措置を望まなかつた。そのうち在宅死が二七一名。

四二の事例が選んである。そこから、さまざま

退職後、埼玉県の堀ノ内病院に赴任した。二年ばかりして、同僚にたのまれ、寝たきりの患者二名を引き継いだ。

どう死ぬかというメッセージを伝える

外科医小堀嶋一郎は定年退職後、埼玉県の堀ノ内病院に赴任した。二年ばかりして、同僚にたのまれ、寝たきりの患者二名を引き継いだ。

半年もしないうちに、往診患者数は二〇名をこえた。三年が経過したとき、三五五名の臨終にかかわっていた。そのうち在宅死が二七一名。

四二の事例が選んである。そこから、さまざま

延命措置を望まなかつた。そのうち在宅死が二七一名。

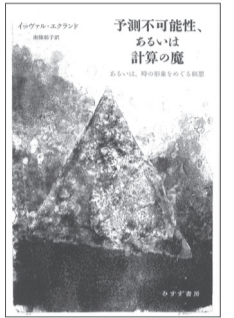
延命措置を望まなかつた。そのうち在宅死が二七一名。

「時」を追い求める数学

イーヴァル・エクランド

《予測不可能性、あるいは計算の魔》あるいは、時の形をめぐる瞑想

南條郁子訳



著者のエクランドは「数学は最善世界の夢を見るか?」(二〇〇九年)でも「その読後感」は文芸作品に似ている(瀨名秀明氏)と数学読み物ファンを魅了した。時の形象という絶妙なテーマに沿って書かれた本作もフランスでジャン・ロスタン賞を受賞し、日本語以外に9カ国語に翻訳されている珠玉作だ。



「時」と「幾何学」がせめぎ合う数学の風景を、これほど鮮やかに描き出せる人がいるだろうか。知ることと驚くことの喜びに満ちた一冊。森田真生氏「数学読み物(四六判・208頁・二八〇〇円)」「数学は最善世界の夢を見るか?」南條訳(三六〇〇円)

大胆かつ精密に遠読する

フランコ・モレッティ 《ブルジョワ》

歴史と文学のあいだ

「世界文学」の旗手にして「遠読」の著者が《歴史》に挑戦する。主題は「ブルジョワ」。

そこから見えてくるものは? 「文学批評の偶像破壊者」モレッティが、社会科学の方法論との融合を目指して打ち立てた、新時代の文学研究と歴史研究の理想型。「世界文学」西洋史(十八日刊)

「帝国医療」を問う

熱帯医学による感染症抑制の夢と現実

二〇世紀初頭の赤道アフリカ地域では「眼り病」が猛威を振るっていた。この病気を制圧しようと、植民地統治を本格化させていたドイツは、コッホらを現地に送り、対策を講じた。しかし、うまく行かなかった。第一次大戦後に敗戦国ドイツは特効薬を開発

「帝国医療」を問う

熱帯医学による感染症抑制の夢と現実

村上海樹は、いまや世界で最も広く読まれている日本人小説家である。その世界的な人気の背景には、英語圏、とりわけアメリカでの成功がある。村上の作品はアメリカの文芸出版の権威であるクノッ

村上海樹は、いまや世界で最も広く読まれている日本人小説家である。その世界的な人気の背景には、英語圏、とりわけアメリカでの成功がある。村上の作品はアメリカの文芸出版の権威であるクノッ

村上海樹は、いまや世界で最も広く読まれている日本人小説家である。その世界的な人気の背景には、英語圏、とりわけアメリカでの成功がある。村上の作品はアメリカの文芸出版の権威であるクノッ

村上海樹は、いまや世界で最も広く読まれている日本人小説家である。その世界的な人気の背景には、英語圏、とりわけアメリカでの成功がある。村上の作品はアメリカの文芸出版の権威であるクノッ

村上海樹は、いまや世界で最も広く読まれている日本人小説家である。その世界的な人気の背景には、英語圏、とりわけアメリカでの成功がある。村上の作品はアメリカの文芸出版の権威であるクノッ

村上海樹は、いまや世界で最も広く読まれている日本人小説家である。その世界的な人気の背景には、英語圏、とりわけアメリカでの成功がある。村上の作品はアメリカの文芸出版の権威であるクノッ

池内紀 小堀嶋一郎 《死を生きたと》を読む



患者である母親は、目を閉じたまま、身じろぎもせず聞いていた。いつもは丁寧な挨拶を欠かさない人が、一言も発しなかった。一カ月後の死のときまで、この件はまったく話題に上ることなく、「通常の、こ

患者である母親は、目を閉じたまま、身じろぎもせず聞いていた。いつもは丁寧な挨拶を欠かさない人が、一言も発しなかった。一カ月後の死のときまで、この件はまったく話題に上ることなく、「通常の、こ

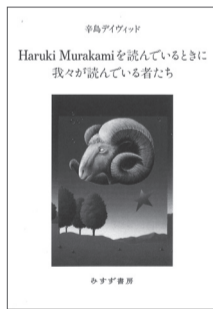
患者である母親は、目を閉じたまま、身じろぎもせず聞いていた。いつもは丁寧な挨拶を欠かさない人が、一言も発しなかった。一カ月後の死のときまで、この件はまったく話題に上ることなく、「通常の、こ

患者である母親は、目を閉じたまま、身じろぎもせず聞いていた。いつもは丁寧な挨拶を欠かさない人が、一言も発しなかった。一カ月後の死のときまで、この件はまったく話題に上ることなく、「通常の、こ

世界的作家が生まれるまで

辛島デイヴィッド

《Haruki Murakami を読んでいるときに 我々が読んでいる者たち》



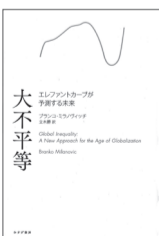
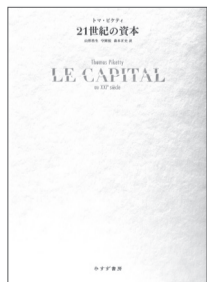
者エルマー・ルーク、リンダ・アッシュャー、ゲイリー・フィスケットジョン、クリストファー・マクレホース、装丁家チップ・キッド……『ねじまき鳥クロニクル』で

『21世紀の資本』と世界の貧困・格差を考える本

資本主義は自動的に大きな格差を生み出す— 今後の議論の出発点となる世界的ベストセラー

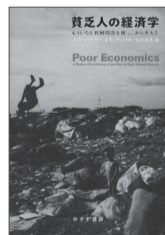
21世紀の資本

ピケティ 山形浩生他訳 5500円



新理論と豊富なデータで所得分布を予測、世界経済の大変動を描き出す 大不平等 エレファントカーブが予測する未来 ミラノヴィッチ 立木勝訳 3200円

貧困から脱出した先進国と取り残された途上国の格差を分析 大脱出 健康、お金、格差の起原 ディートン 松本裕訳 3800円



貧乏人の経済学 もういちど貧困問題を根っから考える パナジー/デュフロ 山形浩生訳 3000円

貧困と闘う知 教育、医療、金融、ガバナンス デュフロ 峯陽一他訳 2700円

善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学 カーラン/アベル 清川幸美訳 澤田康幸解説 3000円

テクノロジーは貧困を救わない 外山健太郎 松本裕訳 3500円

金持ち課税 税の公正をめぐる経済史 シーヴ/スタサヴェージ 立木勝訳 3700円

ウェルス・マネジャー 富裕層の金庫番 世界トップ1%の資産防衛 ハリントン 庭田よう子訳 3800円

新装復刊

[9月]
憲法論

シュミット 近代市民的法治国憲法の発展を思想史的・社会学的に考察、基本構造を分析。阿部・村上訳 ¥6800

[10月]
実践感覚 [全2巻]

ブルデュ 人の慣習的行動=実践を解明する理論的構図。社会学の根本課題に挑戦。今村仁司他訳 各¥3800

人種主義の歴史

フレドリクソン 反ユダヤ主義など、差別を合理化する人種主義を、比較史的な手法で描く。李孝徳訳 ¥3600

ピアノ・ノート

演奏家と聴き手のために

ローゼン 世界的ピアニスト=西洋音楽史と文学に詳しい理論家による痛快なエッセイ。朝倉和子訳 ¥3500



「もう崩壊しそうになつて、崩壊が進んでいる。体が叫んでいる。体は一人で勝手に叫んでいて、こちらを向いて知らん顔をした。」冒頭から読者は「わたし」のいる現場に放り込まれる。

写真集『0円ハウス』で登場し、東日本大震災後に『独立国家のつくりかた』で話題になった異才・坂口恭平は躁鬱病である。死なないうために歌をうたい、絵をかき、モバイルハウスを建て、言語で世界をつくらせてきた。マルチア・ティストとしての彼の活動を、斎藤環は「健康生成のための創造」と呼んでいる。

「水の都」をめぐる名著の新訳

ジョン・ラスキン
井上義夫編訳

《ヴェネツィアの石》

十八世紀末、「アドリア海の女王」ヴェネツィア共和国はナポレオン軍の侵攻により消滅した。翌世紀半ば臨時政府が樹立されるもオーストリア軍によって鎮圧。ターナー、ラファエル前派の発掘者・擁護者として知られ、後のW・モリスやアーツ&クラフツ運動に影響を与えたラスキンはその直後に五度目の訪問を果たし、朽ちるがまま、あるいは修復の名のもとに破壊されていた建築遺産を目のあたりにする。興隆期ビザンティンから絶頂期ゴシック、衰退期ルネサンスにいたる「水の都」の建築史を精緻かつ雄大に綴った著者の全体像を知るに最適なヴァージョン、英文学の重鎮が十年を費やした訳業いよいよ成る。「美術史・建築史・イタリア史」【十一月中旬刊】(A5判424頁・予六〇〇〇円)

一八八三年、ブロードウェイ39丁目に開場したメトロポリタン歌劇場。国の後ろ盾を持たず、富裕な個人出資者たちが資金を拠出して持ち株会社の形で設立されたMETは、常に経営の危機にさらされながら、民主化した歌劇場のスタンスを失うことなく時代の波を潜ってきた。二度の大戦、大恐慌、リンカーンセンターへの移転を経て、労働争議に人種差別問題、冷戦終結、インターネットの席巻に時代と社会、政治の荒波に

小説の新次元をひらく書き下ろし

坂口恭平

《建設現場》

たし」の夢のドキュメントとも読める。見えるもの、聞こえる音、触る感じを、忘れないため、思いだすため、生き延びるために書き記す。その一つ一つが鮮烈でリズムカルで体感的なのである。生成と衰退が語りのなかで繰り返される、精神の「建設現場」のストーリーとも読める。であればこそ終盤の「これからはじまることを、あなたは知っていたのですか。それならば、なぜそれを止めようとしなかったのですか」という問いかけが、心に鋭くささってくる。音楽のような言語が日本の小説の新次元をひらく、書き下ろし長編。『日本現代文学』【十月中旬刊】(四六判320頁・予三〇〇〇円)

歴史と政治がつくるグランドオペラ

C.アフロン/M.J.アフロン
佐藤宏子訳

《メトロポリタン歌劇場》

採まれながらMETが今日に至る道はアメリカの縮図でもある。総支配人の地位をめぐる椅子取りゲーム。新聞、雑誌は熱心に公演や経営について書き、大統領が労働問題に関与する。舞台の上には生まれる奇跡の時間の陰に、経営陣と歌手、楽団、指揮者、演出家、批評家、そして観客が織りなす130年のドラマ。『芸術・アメリカ史』【十月上旬刊】(A5判536頁・予七五〇〇円)

「踏み越え」について」ほか全28編
中井久夫集8 《統合失調症とトラウマ》
【第8回配本】
2002-2004

トラウマ概念の導入の歴史を踏まえつつ統合失調症の特性を語った表題作はじめ、自身の治療経験を語った「統合失調症の経過と看護」「外傷神経症の発生とその治療の試み」等、甲南大時代の文章を編む。また、アフガニスタン紛争やイラク戦争を背景とした。心には複数の接近法が必要であることを、ユングは知っていたのである。心理療法とは何か。他者の心に近づきたいと切実に願う、それを叶えたいとき、近づいた者」の心には何が起きるのか。希少な臨床論9編から追体験する、心理療法家・ユングが見た世界。『心理学』(四六判・248頁・三四〇〇円)

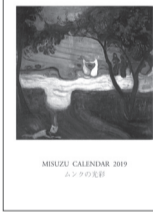
希少な臨床論9編

C.G.ユング
横山博監訳 大塚紳一郎訳

《心理療法の実践》

さまざまな学派が心のモデルを作ろうと競うなかあつて、ユングは決して他学派の存在を否定することはなかった。心には複数の接近法が必要であることを、ユングは知っていたのである。心理療法とは何か。他者の心に近づきたいと切実に願う、それを叶えたいとき、近づいた者」の心には何が起きるのか。希少な臨床論9編から追体験する、心理療法家・ユングが見た世界。『心理学』(四六判・248頁・三四〇〇円)

美術カレンダー2019
ののご案内



二〇一九年版は「ムンクの光彩」をお届けします。近代絵画の巨匠エドヴァルド・ムンクの初期の内省的な作品から、色彩豊かな晩年に至るまで、画業のエッセンスを集めました。今秋、東京都美術館にて大回顧展「ムンク展」が開催され、代表作『叫び』(ムンク美術館蔵)をはじめとする多彩な作品が紹介されます。小社でも二〇一七年に刊行したSプリード『ムンク伝』(木下哲夫訳、八〇〇〇円)が、絵画制作の秘密を解き明かした評伝の決定版として高い評価を受けています。カレンダーはハガキ大七葉にポストカード一枚付、ペーパーケース入、卓上用です。ご希望の方は、一部六二〇円(税込)と送料手数料、計七〇〇円分の切手を同封の上、みずず書房営業部(〒113-0033文京区本郷2-20-7)までお申し込みください。複数のご購入については営業部(電話03-3814-0131)へお問い合わせください。書店店頭でもご注文になります。(十月下旬発売予定)

みずず書房 営業部だより

小堀鷗一郎『死を生きた人びと』が、あつというまに七刷です。日々のお仕事でテレビで紹介され、池内紀氏の新聞書評(前面コラムご参照)などの影響と共に、訪問診療としての活動に興味を持たれる方も多いかもれません。実は、小堀先生が勤務されている病院は拙宅のすぐそばです。ここ数年毎週末、近くを車で通っているのですが、自社の出版が決まった際には大変驚きました。近くに住む友人が患者さんの食事を作る仕事をしているので、病院の存在は以前から知っていたこともあり余計です。その友人に訊くところ、小堀先生が訪問診療をされていると知らなかった患者さんが多かったようで、普段は無口な方に「この病院には凄く先生がいるんだね」と話しかけられて驚いたとも、訪問される先の患者さんたちではなく、院内の患者さんたちも、いうまでもなく読者の私たちも、沢山の元気をいただいたようです。

みずず書房 近刊のお知らせ

11-1月の刊行予定から

- 《効果的な利他主義》宣言！
ウィリアム・マッカスギル 千葉敏生訳
中枢神経系 中世・近代篇
ジュール・スーリィ 萬年甫・新谷昌宏訳
子ども文庫の100年 高橋樹一郎
ガザに地下鉄が走る日 岡真理
他者の影
ジェシカ・ベンジャミン 北村婦美訳
タコの心脳問題
ピーター・ゴドフリー=スミス 夏目大訳
ナイチンゲール 神話と真実 [新版]
ヒュー・スモール 田中京子訳
ウイルスの意味論 山内一也
こわれやすい人生 (仮)
S. ウェスタビー 小田嶋訳 勝間田監修
ホロコーストとアメリカのユダヤ人 (仮)
丸山直起
(www.mszo.jp/book/new/ にもご案内)

みずず書房・最近の重版より

- 死を生きた人びと——訪問診療医と355人の患者
小堀鷗一郎 ¥2400
- エコラリアス——言語の忘却について
D.ヘラー=ローゼン 関口涼子訳 ¥4600
- イングリッシュネス——英国人のふるまいのルール
K.フォックス 北條文緒・香川由紀子訳 ¥3200
- いじめの政治学 <中井久夫集 6>
中井久夫 最相葉月解説 ¥3400
- 貧乏人の経済学
バナジー/デュフロ 山形浩生訳 ¥3000
- 憲法9条へのカタバシス
木庭顕 ¥4600
- 日米地位協定——その歴史と現在 (いま)
明田川融 ¥3600
- エルサレムのアイヒマン [新版]
H.アーレント 大久保和郎訳 ¥4400
- 夢遊病者たち 1
C.クラーク 小原淳訳 ¥4600
- 兵士というもの
ナイツェル/ヴェルツァー 小野寺拓也訳 ¥5800